

2. 学部授業科目

授業科目名 (英文表記)	紀州郷土学 2 A ー 紀伊半島の大地と自然に学ぶー (Kisyu hometown study 2 A)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義
担当教員	此松 昌彦、本塚 智貴、久富 邦彦、中串 孝志、高須 英樹		
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	第1回	5月16日(土)	13:00~17:00 (担当: 此松)
	第2回	5月30日(土)	13:00~17:00 (担当: 久富)
	第3回	6月6日(土)	13:00~17:00 (担当: 此松・本塚)
	第4回	6月13日(土)	13:00~17:00 (担当: 中串)
	第5回	6月20日(土)	13:00~17:00 (担当: 中串)
	第6回	6月27日(土)	13:00~17:00 (担当: 高須(非常勤))
<p>【授業のねらい・概要】 紀州郷土学 2 では、紀伊半島(和歌山県と三重県南部の紀州地域を主とする)地質地形、気候、生物、文化、歴史、自然環境、郷土の学習、保全保護から「郷土: 紀伊半島」を考える。地域の独自性を総合的に学べるカリキュラムとする。本科目では地質地形の上に人の営みがあって、現在の紀伊半島の多様性があり、それを活用することで地域の独自性を高めて、この地域でしかできない持続可能な地域経営や観光、産業に活かすことを学ぶ。学生、地域づくり、観光関係、地域ガイド、ジオ活動者、教育関係者、Uターン者などをターゲットとする。 2 A では、「紀伊半島の生い立ちと自然遺産の活用」(紀伊半島の自然史、災害史)紀伊半島の地形地質の特徴とそれを取りまく防災、観光、教育に活かす手法「ジオツーリズム」などを紹介します。</p> <p>【授業計画】 第1回「ガイダンス・総論」(教育学部・此松) 郷土の防災教育と全国のジオパークを事例にジオツーリズムや郷土の恵みと災害を理解する。 第2回「紀伊半島の生い立ち」(教育学部・久富) 紀伊半島誕生の生い立ちから現在のすがたについて考える。 第3回「紀伊半島の大規模災害とまちづくりの歴史」(教育学部・此松、防災研究教育センター・本塚) 繰り返す自然災害と寄り添い暮らしを来た先人達が、地域の自然環境に適応させたまちづくりを学ぶ。 第4回「ジオパークのほんとう」(観光学部・中串) そもそもジオパークの実態を知っているだろうか?…国内外の現実から南紀熊野ジオパークを考える。 第5回「サイエンスコミュニケーション? お客様が本当に聞きたいことは?」(観光学部・中串) 科学はなぜ伝わらないのか? …ここから、ジオツーリズムが誰に何をどう伝えるべきかを考える。 第6回「紀伊半島の植生・レッドデータリスト」(非常勤講師・高須) 紀伊半島の植物の固有種やレッドデータリストから生態系を考える。</p> <p>【到達目標】 紀伊半島の地質、ジオパークについて考え自らのことばで語るができる。またそれらの興味に基づいて、自ら文献等を調べることができる。</p> <p>【教科書】 特に定めません。基本的には適宜、講義ごとに資料を配布します。</p> <p>【参考書】 特に指定はありません。講義時に適宜、紹介します。</p> <p>【授業時間外学習】 紀伊半島の地質やジオパークなどのニュースについて関心を持ちながら集めておいてください。地域でどんなことが話題になっているのか整理しておいて下さい。復習と自主的に学習が必要です。</p> <p>【履修上の注意・メッセージ】 基礎知識がなくても理解できるように授業を構成しますが、各自でわかりやすい入門書などを読んで理解を深めるようにしてください。講義は1回完結です。郷土の地質、ジオツーリズムが地域の暮らしにどうつながるのか考えてみて下さい。特に前年度までの紀州郷土学受講生は、学んだ知識と暮らしの関連性について考えてみてください。</p>			